

## 7. きょう土を開く

### (1) かんがい用水を開く

会津高田町の農業用水は、<sup>みやかわ</sup>宮川・<sup>あかさわ</sup>赤沢川・<sup>にごり</sup>濁川などの<sup>かせん</sup>河川の上流<sup>じょうりゅう</sup>から、長い水路をつくってとり入れています。このようなしせづを「<sup>せき</sup>堰」といいます。うるおす面積は1180ヘクタールで、町の全水田面積の70パーセントにあたり、そのほかの水田はため池（つつみ）によって水を得ています。

町に堰は大小合わせて73ヶ所あり、ため池は31ヶ所あります。堰もため池も農民の苦しい生活の中の<sup>ちえ</sup>知恵であり、多くの人手とたいへんな<sup>ひよう</sup>費用を出してつくり、<sup>せいさん</sup>生産の向上に<sup>つと</sup>努めました。ところが大雨による<sup>ぞうすい</sup>増水でなんどもこわされ、そのたびに人々はしゅう理や改しゅうを重ね、<sup>くろう</sup>苦勞と<sup>どりよく</sup>努力によって<sup>まも</sup>守りつづけてきたのです。



▲大久保ため池

#### さんがんせき 三貫堰

この堰は、宮川の流<sup>なが</sup>れが<sup>おまたちく</sup>尾岐地区の<sup>にしもと</sup>西本と<sup>くぼ</sup>尾岐窪の間を流れる所、<sup>かぶと</sup>冑の東にあります。<sup>えど</sup>江戸時代につくられ、この堰水は<sup>にんのう</sup>仁王、<sup>まつきし</sup>松岸、<sup>すぎ</sup>杉ノ内の用水となり、<sup>ながいの</sup>永井野地区・赤沢地区へと流れます。